

一朝の礼拝から 1—

「何事にも時がある」

コヘレトの言葉 3章 1～15 節

先日、友人と会った際、こんなことを言われました。「あなた、いつもタイミングがいいよね」。これまで考えたことはありませんでしたが、思い返してみると、一番思い当たるのは、日本語教師をはじめた時期でした。

私は、卒業後すぐに日本語教師をはじめたわけではなく、会社員として働いていた時期がありました。その頃、日本国内の日本語学校では、教授経験3年以上という応募要件があり、教授経験を積むには、海外へ行くことが必要でしたが、家族の意向もあり、それがかなわなかったためでした。そのため、会社員をしながら、国際交流のサークルやボランティア活動に参加していました。その後、しばらく会社員として働いていましたが、日本語教師を諦められずにいました。そんな時、海外の日本語学校で働いている先輩から声をかけていただき、家族の理解を得ることができたことから、海外で日本語教師としての仕事をはじめることになりました。

日本語教師をはじめた当初は、遠回りしてしまっただけで焦る気持ちもありました。しかし、今思い返してみると、会社員の経験は決して無駄ではありませんでした。例えば、企業での日本語研修を担当した際には、経験をふまえて研修参加者の質問に答えることができました。また、学校全体の業務を俯瞰して見たり、自分がやるべきことを考えたり、行動することができたのも会社員の経験があったからだと思います。

皆様の中には、今、苦しい状況の中で、「なぜ」という気持ちで心がいっぱいの方がいるかもしれません。しかし、神様は最も良いときをご存知で、そのときに必要なもの、道を備えてくださいます。このことに感謝し、日々の生活を送っていきたいと思います。

日本文化学科 富永祐子

一朝の礼拝から 2—

「真の休息とは」

マルコによる福音書 6章 30～33 節

GW が終わり仕事や学校が再開しました。しっかり休むことが出来たか。私は正直、休むことができませんでした。4年生になり進路や卒業論文について考えなければならぬことが多くあり、課題に追われ、毎日アルバイトをするGWでした。

先ほどお読みした箇所はイエスによって宣教の旅に出発した弟子たちが帰って来たところから始まっています。ここでその弟子たちの報告を聞いたイエスは彼らにしばらく休息を取るようにと促しています。弟子たちのこの旅はイエスの指示により厳しい条件の下で宣教活動をするものでした。決して簡単なものではなく、弟子たちにとって相当の緊張を強いられたものであったと思います。人間は緊張がほぐれた時にどっと疲れが襲うことがよくあります。イエスはそのような弟子たちの状態を察してこのように言われたのかもしれませんが。この箇所を読み、本当の休みとは何かを考える機会となりました。イエスは弟子たちに「人里離れた所」で休息するように言っています。

私たちは心身の疲れを癒すために休息を必要としています。人それぞれ、ストレスの発散方法や休日の過ごし方は違いますが、私にとっては日曜日に教会に行くことが休息の1つになっています。私は去年1年間韓国に留学していました。留学中も毎週日曜日に教会に通っていました。その教会には青年部があり、大学生が中心になり礼拝とは別に様々な活動が行われていました。自分たちで料理をしてお年寄りの方々へ振舞ったり、讃美歌をアレンジして披露したり、説教の内容についてディベートをしたり、近くのカフェや映画館や運動場へみんなで行ったりしました。私は毎週日曜日に教会に通うことが楽しみでした。留学前の私はただ教会に行き礼拝を聞くだけで、教会にいる時でさえも心身は緊張状態にあり、本当の意味で休息することが出来ていなかったのだと思います。イエスは聖書の中でこのように語っています。マタイ 11:28 「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」これは私たちを招くイエスの言葉です。

教会は疲れを癒したい時、休息が必要だと思った時にいつでも行っていい場所です。コロナが収束していき、生活で縛られていた緊張感がほぐれてどっと疲れが襲う時があると思います。そんな時、皆さんも休息することが出来るひとつの場所として教会を選んでみるのもいいと思います。

英語学科4年 佐々木 美優